

平成 28 年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 幸和会	代表者	理事長 横尾 幸久	法人・ 事業所 の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の本当の気持ち(ニーズ)を理解し、思いやりのある対応を心掛けています。 ・利用者様もスタッフも、明るく笑顔でいっばいの雰囲気作りを目指しています。 ・職員への研修を充実させて、介護の質の向上を図っています。 ・地域の行事やイベントに積極的に参加しています。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 ふるる	管理者	清家 研一		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	4人	2人	0人	0人	0人	0人	4人	0人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職員、看護職員、ケアマネジャー、管理者間の連携をカンファレンスや申し送り等を通じて図っていく。 ・資源の活用として、外食や喫茶店への外出レク等の企画を増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職員、看護職員、ケアマネジャー、管理者間の連携がカンファレンスや申し送り等の記録で、良く取れていることが分り、情報の共有が上手く行っていると思う。 ・資源の活用も外食や喫茶店への外出レク等を企画して、改善されていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは常勤の各職員が、良く自己評価が出来ていると思う。そして、事業所全体で話し合いも行なわれており、上手く行っているのではないか。 ・この1年間、常勤の退職者が0人と聞いており、この介護業界で退職者が居ないということは、それだけ事業所がしっかりしている証拠でもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用する前の情報だけでは、利用者様の全てを把握しているわけではないので、また家族様も知らない情報があるため、利用後に信頼関係を密にし本人様、家族様からしっかり情報の聞き取りを行えるよう心掛ける。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の玄関は、開放されていて誰でも入ってくることはできるが、施設内から外へは、リスク防止の為、スイッチを押さないと扉が空かないシステムになっている。ただ、それでも利用者様が知らない間に出て行く可能性はあるため、事務所のスタッフや他の利用者様にも協力を仰ぎ、全体で見て行くようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関に鍵をかけない利点を最大限生かしながら、利用者様が職員が知らない間に、外へ出られて迷子や交通事故に合わないよう施設全体で見ている体制になっている。事務所から正面玄関が近く、見渡しやすい事も利点の一つである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が笑顔で迎えてくれるなど、事業所に入りやすい雰囲気作りができています。 ・事業所は、掃除が行き届いており、また施設全体が明るいため、大変居心地が良い空間になっている。 ・玄関入ってすぐの場所に「地域交流スペース」があり、地域の方々が入りやすい工夫がされている。 ・利用者様が自由に出入り出来る環境は確かに良いことだが、職員が知らない間に利用者様が外に出てしまって、迷子や交通事故に合うリスクは、引き続き考えておいたほうが良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の改善計画同様、引き続き、玄関に鍵をかけない利点を最大限生かしながら、利用者様が職員が知らない間に、外へ出られて迷子や交通事故に合わないよう施設全体で見ていくようにする。

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、地域のイベントや行事に積極的に参加して行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の「外部評価」から、約1年が経ったが、さらに地域との関わりが増えているのではないかと感じている。私たち評価者(=運営推進会議メンバー)も、年間の地域の行事計画を作成し、事前に事業所にお渡ししたいと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まず管理者が地域とのかかわりに積極的であるため、それが事業所全体にも浸透しているのではないかと思う。高川祭りや地域の運動会の設営準備に管理者自らが来てくれているのは嬉しいことである。なかなか他事業所で管理者自らが来てくれている事業所はなかなか無いと思う。 ・ふるるの地域交流スペースを開放していて、地域のミーティングや打ち上げ、研修の会場として使わせて頂いており、大変助かっている。 ・地域の方に事業所を知ってもらう事は重要だが、事業所の良い点ばかりではなく、悪い点(=改善すべき点)も当然ながら地域の方が知ることとなる。普通であれば、悪い点はなかなか見せたくないのが人間の心理だが、ふるるは全てを開放し、どんどん改善点を見つけて欲しいというスタンスに好感が持てる。 	<p>特に改善点はなし。</p>
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様本人が住んでいる地域の方を交えた会議に、介護職員も参加出来る様に努力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・残念ながら、利用者様本人が住んでいる地域の方を交えた会議に、介護職員自体が参加する事ができなかった。が、管理者はいつもその会議に参加しているので、当面はそれで良いのではないかと。やはり、介護職員は、現場での介護がメインの仕事であるし、地域の会議へ参加した管理者が、現場にカンファレンス等で、伝達すれば十分だと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者以外のご近所の心配な方にも、日頃から相談に乗っているとのことだが、やはり、ふるるが近所に口コミ等で良く知られている証拠でもあり、素晴らしい事だと思う。 ・確かに現場の介護職員は地域の会議には参加していないが、「地域に出向いて本人の暮らしを支えている」という意味では、会議以外のこと、例えば地域の餅つき大会には、介護職員も一緒に本人(利用者様)と出向いているわけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の利用者様が、引き続き、地域の行事やイベントに沢山参加できるようにしていく。

			だから、十分役割を果たしていると思う。	
E. 運営推進会議を活かした取組み	特に改善点はなし。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議を活かした取組み、とりわけ、地域交流が双方で出来ているため、特に改善点はなし。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議では、事業所内の、今現在の運営状況や収支、利用者様の処遇で困っていること等、色々と話をしてくださり、私たちも勉強になっている。 ・逆に、運営推進会議メンバーの私たちも地域の問題点や困っている事を、ふるるに相談できればさらに良い会議になると思われる。 ・今後も地域の新しいイベントや行事があれば、運営推進会議の場でも紹介して行きたいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で、事業所の取組みについての話は十分行なわれているので、利用者様以外の地域の心配な方の事例検討をさらに増やして行くようにする。
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の防災計画（火災・風水害・地震等）を評価者に提示するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の防災計画（火災・風水害・地震等）は、改善策にもあったように、本日の運営推進会議で見せてもらい、理解した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害はいつ、どのようにして起こるか分からないが、防災訓練を始めとした「防災対策」を日頃から考えておく事は重要だと思う。 ・地域(近所)で火災が起こった場合は、事業所のスタッフが救済にいけるが、地震が起こった場合は、おそらく事業所内でも対応に追われている為、地域(近所)へ事業所のスタッフが救済に行くことは出来ないと思う。つまり、災害と一口に言っても、火災と地震では、対応策が変わってくる。 ・事業所で、夜間に火災が起こった場合、夜勤の職員だけでは対応が出来ないのは明白なので、すぐに近所へ救助の応援を依頼してください。いつでも救助に行きます。 	特に改善点はなし。